

## 2013年度（平成25年度）

### 独自事業

#### 「熊野発日本のサンマ文化と地域活性化—サンマ街道を南北につなぐ—」

熊野の代表的な食文化のひとつであるサンマずしとその文化を地域資源として再評価し、地域づくりに活かすとともに、日本の食文化の豊かさとしての魚食文化を熊野から発信することを目指す独自事業。

紀伊半島を拠点に日本列島沿岸のサンマ漁のある漁港がある地域を中心にした「サンマの海（街）道」と、その道の上に展開する「サンマの食文化」に関する資料の収集を目的に平成25年度は、東北2県（岩手・宮城）のほか新宮市・那智勝浦町・奈良県十津川村で聞き取り調査を行った。調査結果は、「サンマとその食文化マップ」（仮称）にまとめる。

また、それらの調査活動にもとづき、「紀伊半島サンマ食文化研究会」を設立、サンマ文化の再評価と熊野の地域づくり、まちづくりに活かす事業を検討する。

対象地域：

#### A 紀伊半島のサンマ文化

和歌山県南部地域・三重県（熊野地域）・奈良県吉野地方（十津川村・北山川流域）

#### B 県外

北海道・東北・関東から東海・紀伊半島までの「海道」と紀伊半島（三重県熊野市・伊勢市、奈良県十津川流域・北山川流域、和歌山県）の「街道」

#### 「廃校舎の利活用と地域再生モデル」ブックレット作成

人口減少と少子高齢化が進行する中で、和歌山県内では廃校になる小中学校が相次ぎ、廃校舎問題は今後都市部でも顕在化するものとみられる。それに伴い、コミュニティの観点からも、使用されなくなった学校施設、廃校舎の利活用がすでに各地で課題になっている。

来る「大量廃校舎時代」をどうするか。この事業では、廃校舎を地域づくりの拠点として再生している紀南地域のブックレットを作成することにし、現地調査を実施する。

モデル校はつぎのとおり。

- ・串本町（旧 古座町姫）養春小学校 観光・都市との交流の拠点をめざす
- ・古座川町平井 七川小学校平井分校 平井ゆずの里 地域ビジネスと女性の参画
- ・新宮市 九重小学校 カフェと図書館に再生
- ・那智勝浦町 籠小学校
- ・田辺市龍神村 宮代小学校
- ・そのほか

### 「大学と商店街の連携・交流による新宮市仲之町商店街活性化モデル」の研究

シャッター化が進行する熊野地域屈指の商店街だった仲之町商店街で、和歌山大学経済学部学生が2012年に続き、2013年にもフィールドワーク（商店主インタビュー・消費者アンケート調査）を実施、さらに調査結果報告会を商店街で開き提案をするとともに意見交換会を行った。

### 協力事業

#### 「アート田辺北山Dayへの参加」

「田辺の日常にアート」をテーマに、田辺市在住の画家廣本直子さんの呼びかけで「アート田辺2013」が、地域内外・国内外からアーティストが参加して7月21日から8月4日にかけて旧市立図書館などを会場に開かれた。そのうち、8月3日に開かれた「北山Day」に協力、きのくに活性化センターが関わって製作した『奥熊野・北山村の民俗誌 100の話で語る村の今昔』を話題に、エッセイストの原水音さんらを招き、トークショーを行った。